

# 日中戦争と歴史教科書の記述

## 教科書の反日的記述

- 教科書の発問内容
  - 東京書籍は「日本はどのようにして日中戦争を起こしたか」と発問。
  - 日本が戦争を引き起こしたという前提で記述が進む。
- 反事実的な記述の問題
  - 教科書の記述は事実を無視し、反日的な視点が強調されている。
  - 文科省の検定を通過する中で、事実に基づかない記述が許容されている。
- 歴史教育への影響
  - 教科書の内容が学生に与える影響は大きく、歴史認識に影響を及ぼす。
  - 正確な歴史教育が求められる中で、教科書の内容が問題視されている。

## 戦争の拡大に関する記述

- 拡大派と不拡大派の描写
  - 各社は戦争の拡大を自然な流れとして記述。
  - 日本政府内の派閥が影響を与えたとする論調が見られる。
- 重要な事実の欠落
  - 通州事件のような日本市民の惨殺が戦争拡大の背景にある。
  - 政府は和平案を策定し、不拡大方針を貫いた事実が無視されている。
- 中国側の攻撃の影響
  - 上海での日本市民の惨殺事件が戦争拡大の引き金となった。
  - 日本側の攻撃拡大は中国側の行動によるものである。

## 教科書における盧溝橋事件の記述

- 各社の教科書の記述内容
  - 東京書籍では、盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まったと記述。
  - 帝国書院は、日本軍が中国南部から侵攻したことを強調。
  - 教育出版は、宣戦布告なしに日本軍が戦線を拡大したことを述べる。
- 事件の記述における共通点
  - ほとんどの教科書が「日中両軍が衝突」と記載し、攻撃の主体に触れない。
  - 偶発的な衝突として描写され、戦争の拡大に関する論調が見られる。
- 特異な記述の例
  - 育鵬社は「何者かの銃撃を受けた」と記載し、攻撃者の特定には触れない。
  - 令和書籍も同様に、銃撃を受けたと記載し、責任の所在を曖昧にしている。

## 現地停戦協定の重要性

- 停戦協定の内容
  - 事件の4日後に交わされた現地停戦協定が重要な証拠。
  - 中国側が日本軍に対して謝罪し、責任者を処分することを約束。
- 協定の意義
  - 協定は事件の責任が中国側にあることを示唆。
  - 共産党などの抗日系団体が関与している可能性を示す。
- 教科書での無視
  - 教科書ではこの協定について触れず、事件の真相を隠蔽している。
  - 偶発的な衝突としての記述が続く中、協定の存在が無視されている。